

# 令和5年度第2回横須賀市自殺対策推進協議会会議録

- ・ 日 時：令和5年10月5日（木）10時～12時
- ・ 場 所：横須賀市生涯学習センター第1学習室
  
- ・ 出席者：荒木稔、大滝紀宏、奥原孝幸、笈修一、檜福宏征、河野伸子、  
君島富美江、金原健一郎、工藤幸久、後藤圭一、玉井秀直、土田賢一、  
中島直行、平岩仲康、藤尾聡允、渡邊春彦、渡辺大雄  
(敬称略、五十音順)  
欠席 6名
  
- ・ 事務局：民生局健康部 保健所保健予防課長 : 小菅俊彦  
民生局健康部 保健所保健予防課主査 : 増田浩子  
民生局健康部 保健所保健予防課主任 : 菅祐太郎  
民生局健康部 保健所保健予防課主任 : 鍛治美和子  
民生局健康部 保健所保健予防課担当者 : 高田淳

## ・ 次第

### 1 補欠構成員自己紹介

### 2 議 事

- (1) 横須賀市自殺対策計画について
- (2) 今後のスケジュールについて
- (3) その他 自殺対策計画の概要の作成方針について

## 次第1 後藤構成員あいさつ

### 〈事務局〉

これより令和5年度第2回自殺対策推進協議会を開催する。保健所保健予防課長の小菅が本日の進行を務める。それでは、本日新たに加わることになった後藤構成員に挨拶をお願いしたい。

### 〈後藤構成員〉

9月26日付けで横須賀警察署生活安全課長として赴任した、後藤と申します。よろしく申し上げます。

### 〈事務局〉

ここからは要綱に基づき、大滝座長に議事の進行をお願いする。

## 2 議事（議事進行：大滝座長）

### （1）横須賀市自殺対策計画について

#### 〈大滝座長〉

こんにちは。暑い夏が終わり、少し涼しくなったが、私の患者をみていると、夏の疲れが今頃出ていて、外来の方も、うつのような人が多く、全身の疲れを訴えている。自殺対策もそうだが、まず支援者が元気でないといけない。皆さんも健康に留意していただければと思う。議事1について事務局より説明をお願いします。

#### 〈事務局〉

資料1を用いて説明

#### 〈大滝座長〉

今回新しい横須賀市自殺対策計画を作るにあたって、分科会を開いて3つの分科会の中で議論をした。その分科会での意見を踏まえて、自殺対策計画の案ができています。分科会の意見と前回の協議会の意見を入れ込んであります。事実関係について質問はあるか。

12 ページの自殺対策計画の評価の見直しについて議論したいが、事務局から説明があったように、評価として、数値的に上手くいっていないが、ただ反省するだけではなく、いくつかに分けて事務局なりの考えを書いている。これは本文にも入っている。

#### 〈奥原副座長〉

元々暫定値では14.8ということであったが、17.9というのはかなり違う気がして、どう捉えればいいのか。

#### 〈事務局〉

平成28年にも自殺統計が57名であったが、人口動態統計では68名と10名増えていた。通常2～3名増える程度だが、今回は大きかったので自殺死亡率も目標を大きく下回ってしまった。

#### 〈奥原副座長〉

データをどう見るかというところも頭の隅に置いておかなければいけない。

#### 〈中島構成員〉

前回の協議会の時も14.8と目標達成と繰り返していたが、全国レベルの統計を取るには少ないので、ちょっとしたことで減ったり増えたりするので、1年だけの数値に捉われず、5年間の動きがどうかということでやらないと、たまたまその年に良い数値が出ると達成した、悪い数値が出ると達成できなかったと、あまり捉われすぎない方がいいと思う。

あと警察の統計と、厚労省の統計と出所が違うので、その関係でどのような誤差が生じるのか教えてほしい。

#### 〈事務局〉

自殺の統計は、人口動態統計といって厚労省で、死亡届や死体検案書に基づいて統計するものと、警察庁統計といって、警察で捜査をして自殺と判明したものと2種類ある。14.8だった警察庁統計は、警察で捜査した段階で自殺と判断したものを数えたもので、外国人も含

めた数になる。人口動態統計は死亡理由で自殺としているものを数えている。こちらは日本人だけを数えている。年によって大きく違う時があり、全国的に見ると警察庁統計の方が自殺した数が多い傾向があるが、神奈川県に限っては、人口動態統計の方が多くがあり、調査の方法が違うので、結果的に数字が違ってくるが、具体的な理由までは分からないという現状である。

#### 〈大滝座長〉

警察庁統計では外国人も入っているということだが、警察庁統計に関しては、自殺の死亡場所で、人口動態統計は住民票の所在によるのではなかったか。

#### 〈事務局〉

警察庁統計は4種類あり、住所地と、死亡場所の2通りに分かれ、自殺した日、発見した日の2つに分かれるので4通りあるが、この14.8の数字に関しては、横須賀市民でかつ令和4年の死亡日で、数えている。考えられるとすれば、住民票を置いたまま単身赴任しているとか、学生で下宿している場合は、住民票はあくまで横須賀にあるので、この場合は人口動態統計では横須賀市民としてカウントされるが、警察庁統計で自殺以前に住んでいた場所で調査してということで、カウントされないことになる。

#### 〈大滝座長〉

横須賀市の人口375,000人では、1人、2人によって変動するというので、あまり一喜一憂しても仕方がないという意見があった。今回そういうことも踏まえて、数値目標だけではないものをということになっているが、数値目標も作らなければならない。他の評価についてはどうか。

#### 〈渡辺構成員〉

表現の問題だと思うが、評価の見直しで、見直し後の「現行計画の目標は達成できなかったものの、自殺未遂者支援や産後うつ対策など女性への支援が功を奏し現行計画の取組について一定の成果を得られた」とあるが、素案25ページの(2)前計画の取組を踏まえた今後の課題と対応のところに、「近年は主婦や学生の自殺者が増加し、市民意識調査では女性や若年層の1年以内に自殺を考えたことがある人の割合が増加した」とあり、どちらが正しいのかと感じた。

#### 〈事務局〉

確かに読むと矛盾してしまう所で、表現の仕方がよくなかったと思う。特に女性については全国的にかなり増えている。そこに比べて横須賀市はそこまで増えていないという言葉が足りず、誤解を招く表現であった。訂正する方向で検討する。

#### 〈大滝座長〉

全国的に女性と子どもの自殺が増えているということが一般的なコンセンサスになっていて、その割には横須賀市でも増えたが、増え方に関しては一定の歯止めがかかっているのではないか。それは自殺対策が功を奏しているのではないかということをお願いしたいわけだが、結果は微妙でそこまで言い切っているのかわからないが、そういう方向でよろしいか。

〈土田構成員〉

自殺死亡者の推移のところ、10 ページのところ、自殺で死亡された方の数は毎年ばらつきがあり、移動平均の形で前後5年分を取った折れ線グラフを表示しているが、これを見ると順調に減ってきている傾向がある。今回についても、単年でみると昨年に比べて増えているが、5年毎に見た時に、全体としては減っている。今後も5年後に評価する時に、同じように単年で評価すると減ったのかわからないので、5年間で実数として何人だったのか、5年ぐらいのスパンで評価するというのも1つの評価の仕方だと思う。

〈大滝座長〉

非常に重要な指摘で、5年ぐらいの平均の表をうまく追加できないか。

〈事務局〉

そのように素案に反映していきたい。

〈大滝座長〉

評価はこの12ページを踏まえた、本文の24～26ページはその線で、グラフについては単年だけでなく、5年の平均を上手く矛盾のない形で盛り込むということによいか。

〈事務局〉

はい。

〈大滝座長〉

自殺対策計画に死亡率以外の目標を取り入れるという形で、数値目標を達成するための理念は、事前配布資料では質的目標として記載していたが、質的目標という言い方は分かりにくいので、理念という形にしてはどうかという話になっている。数値目標は難しく、数値目標としては案が2つある。案1は基準値を維持し、毎年3%減として、33%減として、目標値を12.2以下にする。案2は基準値を維持し、国・県に合わせて30%減とし、目標値を12.7以下にするという30%と33%の違いであるが、この案1と案2ではいかがかということ。総論チームの中では案1がよろしいのではないかという話になっていたが、国や県に合わせなくても毎年1つずつ下げるということに意味があるのではないかという話もある。先ほどの5年間の平均ということを考えてどうなのか、その辺も踏まえて意見をいただきたい。

〈君島構成員〉

令和4年だけの数字を取り出して「達成できなかったものの」と言っているのが、5年間の計画に対してどうなのかというのが分からない。

〈大滝座長〉

総論チームの中で教えてもらったが、市によっては単年度で数値を出していない所もある。しかし数値が無くていいのかという問題もあるので、5年間を一括りとして前5年、次の5年と数値を出しておくのは、意味があるのではないか。

〈奥原副座長〉

私もこの数字を見た時におかしいと思った。5年間一生懸命やってきて、5年目の数字だ

け取り上げているという印象で、経過がどこにも出てこない。5年間で平均にした数字にするのか、5年目で判断するのか難しい。

#### 〈大滝座長〉

目標設定の前提とする数値を単年度にしないで、複数年度を2で割って基準にし、単年度で一喜一憂するのはやめようという視点ではあったが、今回また単年度の数値目標になってしまった。5年の平均値がいいのか、最初の2年間と最後の2年間の数値でいいのか、微妙な問題がある。この5年に関してはコロナの影響がすごく大きいと思う。私の患者でもコロナ期に入学して4年が経つが、学校に行くと一人ぼっちで、今更友達が出来ないと言っている方がいる。適応できない子どもたちの背景にコロナがあると考えられる。全体として5年間で苦しい・辛い5年間であったと思う。

#### 〈荒木構成員〉

単年でみるか5年をみるかについて、根本的なところで、統計学がわかっていないのではないか。統計学的に言うと有意差は出ないと思う。公に出す文章であれば、統計学的に則った分析の仕方をすれば、標準偏差を入れれば有意差はないだろう。統計学の専門家が見ると、おかしい数値だと思う。統計学に則った評価の仕方をした方がいいのではないか。

#### 〈大滝座長〉

おっしゃる通りだと思う。方向性は決めたいと思う。

#### 〈荒木構成員〉

例えば平均気温のように去年までの10年間を測ったものを10年間使うのが平均気温なので、同様に平均死亡率等5年間のものを5年間使うという考え方でやっていけばどうか。分析を専門的にやると違いが出てくると思うが、5年間という手法を持ってきて考えるのであれば、平均気温のような考え方も1つのやり方だと思う。

#### 〈藤尾構成員〉

私も荒木委員が言ったように、ある程度のスパンをもってやった方がいいと思う。ただそれが5年でいいのかというのが疑問である。昔、国際金融の専門家でも市場分析をしていた時に、株価や海外のマーケットを分析した時、色んな期間をもって分析して、動態を見ていた。今回の5年間の3年半はコロナの特殊要因で、5年が正しいのかは疑問で10年にするか、あるいはコロナの3年半をプラスして、8年ぐらいの曲線にしていくか、また見え方が違ってくると思う。分析手法については、横須賀市で統計をやっている専門家のアドバイスをいただきながら、進めていけばいいと思う。

一番大切なことは、生きる支援 つながるまち 横須賀の政策の方なので、1つの目標としての目安になればいいと思う。

#### 〈大滝座長〉

分析の仕方によっては、長さをどれくらいにするかによって、出てくる数字も違ってくる。統計学の専門家の意見も踏まえて、単年度だけではない数字を目標にもするし、評価のもとにもするという風にして、今ここでは決めきれないので、ただ単年度数値の持ち方は、どちらにするというよりも、今の話を踏まえて目標設定をしていくということで、事務局の方で

一度預かるということにしたい。

13 ページの質的目標という言い方を変えて、理念というところで、第2次計画の数値目標を達成するために以下のような理念を設定してはどうか。「横須賀市員の一人ひとりが、自殺対策についてより深く理解し、生きることや自殺予防について前向きに考えるまちなする。」についてはどうか。計画本文で言うと3 ページの部分である。

#### 〈事務局〉

補足説明すると、計画3 ページの数値目標を達成するための理念の下の所に、5年後の評価のことを考えて、再度市民の意識調査をすると思うので、そこで自殺対策をどれも知らないと答える人の割合の減少や、自殺は防ぐことができると思う人の割合の増加を数値で見えて評価できるようなことも、ここに入れている。

#### 〈大滝座長〉

本文で言うと2 ページの4番 計画の数値目標と、本計画3 ページの上が数値目標で、下が達成するための理念となっているが、この書き方だと数値目標ありきになってしまうので、計画の目標と書いて、前段を数値目標として、後段を理念という形、あるいは逆で理念を先に持ってきてもいい。今日の議論から言うと、抜本的に順番を変えていかないといけないという印象を持った。

理念に関する文言はこれで良いか。

#### 〈奥原副座長〉

先に理念が来て、数値というのは当てにならないと言うわけではないが、明確にデータとして信頼できるかどうかという所もある。また、数値目標だと3%ずつ毎年減ってくるか、30%最後の年に減らすかと目標が明確になる。数値の他に、市民の意識調査で複合的に見るという考え方で、市民意識調査はすごく重要なことだと思っている。

#### 〈大滝座長〉

理念があつての、数値目標を掲げるという方向性で良いか。

#### 〈渡辺構成員〉

理念を先に持ってくるのは大賛成だが、表紙の「生きる支援 つながるまち 横須賀」という言葉と、この理念はどっちがどっちなのかと感じた。

#### 〈大滝座長〉

自殺対策は死なないようにするのではなく、よりよく生きていくことが目標で、生きやすいまちを作ることが大事なので、そういう意味ではこの言葉はすごくいいと思う。

#### 〈事務局〉

今の言葉はスローガンにということで、29 ページの基本方針の下に反映したので、理念は少し違う方がいいのではないかというのがあったが、今貴重な意見をいただいたので、事務局で検討したい。

#### 〈大滝座長〉

基本方針と理念が同じでもいいのではないかと。基本方針に合わせる理念でもいいと思う。ただ、理念は「生きる支援 つながるまち 横須賀」だけでなく、自殺予防の文言が入ってもいいと思うので、その辺を上手く統合して言葉に落とし込めればいいと思う。

#### 〈奥原副座長〉

多分章立ての問題だと思う。第1章は計画の基本的な考え方、第3章は横須賀市の自殺対策の取組で第1節が基本方針となっている。その辺が重なるので、基本的な考え方はこれで行き、取組としてはこういう方針だという流れが出来ているので、私はこの流れに沿って読めるとは思った。

#### 〈大滝座長〉

最初に誰も死なないまちを作ろうと言っておいて、その奥にある考えはこれだと丁寧に説明されている。落とし込む努力はするが、基本的な考え方はこれで良くて、理念を先に持ってきて、説明の所に後ろとの連携を付けて、生きることが大事だと考えるということで、後で各論になった時に、3章になった時に抵抗感がない、違和感がないようにそのまま入れるという風に工夫してもらえればと思う。

#### 〈事務局〉

今の内容で修正する方向で検討する。

#### 〈大滝座長〉

第2章 横須賀市の自殺の現状に関して、前回に会議や部会で議論してきた。市民意識調査の分析もあるが、質問や意見はあるか。

#### 〈中島構成員〉

1章の話に戻るが、理念を先に出して、その中の具体的目標として数値目標を並べるということだが、そうした時に、最初の看板にする理念として、この表現では弱いと思う。5年後の市民調査が難しい表現になっているので、スローガンのような表現を看板にして、数値目標と市民意識が5年後に変わっているという、そういう並べ方になるとぴったりくると思う。

#### 〈大滝座長〉

数値目標を達成するための理念ということであれば、この程度でいいけれども、最終的に自殺対策計画の基本理念となると、もう少し大きく生きることを支援するとか、いろんな人がつながっていくとか、そういうことが表に出て、その上で自殺がなくなるというような文言の訂正があった方がいいのではないかと提言だと思うが、この辺の修正はかけられるか。

#### 〈事務局〉

はい。

#### 〈大滝座長〉

理念が変わるのではなく、表に出すものを変えて、一目見れば横須賀はこういうまちを目

指していると思われるものに変えてもらえればと思う。

第2章のところで、市民意識調査を重視していくことは全うでいいと思う。同じ質問を繰り返すことに意味があり、もちろん時代に合わせて違う質問も入れていい。事実関係についてはずっと議論してきて、横須賀市内の特徴についての分析もしてきたので、ここはこのままでいいと思うが、何か意見はあるか。

〈君島構成員〉

21 ページ「これまで自殺をしたいという考えを思いとどまった理由は何ですか」の中の、その他の割合が大きな数字を示しているが、その他の具体的な内容があってもいいのではないか。

〈事務局〉

中身についていくつか必要であれば文言を載せることはできる。

〈大滝座長〉

文言を1つ、2つ載せるということをお願いしたい。

第3章について、追加したものについて、事務局から説明をお願いしたい。

〈事務局〉

資料1に基づき説明。

〈大滝座長〉

第3節は一部基本施策と重点施策が混ざるのか。

〈事務局〉

基本施策は全国的に自殺対策として取り組むべきだと国から例示されている物を中心に書いていて、第4節の重点施策は横須賀の自殺の特徴に合わせた対策ということで、一部重複するものがある。

〈大滝座長〉

第4節について事務局から説明してもらいたい。

〈事務局〉

資料1に基づき説明

〈大滝座長〉

重点施策の中では、今までSOSを受け取る部署を充実させて、対面以外のLINEを含めた新しいツールを用いて受け皿をという話であったが、それに加えてSOSの出し方の教育が非常に重要である。またSOSを出された時に、ファーストコンタクトが重要で、始めに会う人が信用できないような関りをしてしまうと、二度と来なくなってしまうということで、出し方の教育と受け取る側の教育も、両方重要である。

それから妊娠・出産に関わるメンタルヘルス支援について、周産期という表現をしていたが、周産期は時期が限定されてしまうので、もっと広く柔らかい言い方にした。妊娠・出産に関わるメンタルヘルスに関しては、従来なかった部分を増やして、55ページから59ページま

で、かなり充実して記載してある。様々な部署がこれに関わって対応していく。

#### 〈事務局〉

追加で説明すると、横須賀市子育てガイドということで、妊娠したお母さんに母子手帳を交付する時に一緒に配っている物だが、お父さんの子育てについて盛り込んでおり、お父さんの悩みの相談先もここに載せている。

#### 〈大滝座長〉

分科会の中で、女性を支えるだけでなく、女性を支える男性を支えたり、教育をする必要があるのではないかという話が出た。産休・育休を本人がとるのは当たり前だが、男性もとれるようにし、妊娠・出産が出来るまちはならないと、住みやすいまちにはならないだろうということで、こういうことも死なないで済むということに、究極的にはつながっていくと思うので、ここに入っている。

個人の努力ではなく、制度的なものが大事である。

#### 〈玉井構成員〉

この計画を市民が手にした時に、これだけ多くの施策をやっているが、どこにアクセスして問い合わせればいいのか、具体性が欠けている。計画とはそういうものであって、別建てで出るということであればそれでいいが、一般市民が見た時に、分かりにくい、手に届きにくいような計画内容になってしまっていると感じた。

これだけの自殺者とか発生率が横須賀にあるという事実を知っていただくことから、関心を寄せてもらうことが大事だとすると、見えにくいと感じる。

#### 〈事務局〉

どこの課がやっているというのまでは書いているが、どこに連絡をすればいいのかというところまでは書いていないので、ホームページ上に分かるようにするか、どうすればより市民に届くのか、事務局で検討したい。

#### 〈寛構成員〉

毎日のようにジャニーズのニュースが出ている。性加害というのは男性も被害にあうし、パワハラ、セクハラも男性が被害にあう時代になっているが、そういう表現が計画にない。そういうことをされると、不登校やうつになり、最終的に命を絶つところまで行ってしまうのではないかというのが心配で、今までの常識の範囲で計画が書かれているのではないかと思うが、皆さんの考えを知りたい。

#### 〈事務局〉

とても重要な部分で、ジャニーズのことも連日放送されていて、きちんとした対応ができるのかという部分が多々ある。なかなか表に出なかったり、その支援は難しいと感じている。今回の件は犯罪であると考えているので、44 ページには被害者になってからという形になるが、犯罪被害者等の負担が軽減できるようにという形で、支援策を1つ載せている。あとはセクハラ・パワハラも重要で、前に工藤構成員から同様の指摘をいただき、こちらに関しても企業に限定してしまうが、74 ページにハラスメントの講習会を行うといった形で、対策という形で載せてある。

#### 〈工藤構成員〉

補足になるが、44 ページに人権ダイバーシティ推進課について書いてあるが、人権ダイバーシティ推進課の方の男女共同並びに多様性を考える協議会で、かなり踏み込んだ形の対策・啓蒙を行っている。ここにいくつかピックアップされているが、今の意見の内容も追加できると思う。

#### 〈事務局〉

担当課と調整します。

#### 〈君島構成員〉

学校の先生は、今日は来ていないが、ジャニーズの被害にあわれた方は10代で、学校では私たちの時代より踏み込んだ性教育をしていると思うが、そういった話を学校の先生に聞きたかった。

#### 〈大滝座長〉

我々が想定していなかったような、様々ないじめや人権侵害が次々として出てきて、きちんと対応することが大事だが、基本的な人権感覚、人として敬われて嫌と思うことはされないということが、徹底される必要がある。ただ今回の自殺対策に関しては、困った時にSOSを出す先があるということで、この冊子につけるのかはわからないが、連絡先一覧がどこかに付いていて、相談先が分からない人は、どこに連絡をくださいというようなものも入れておいた方が良さそう。新しい形の犯罪がどんどん出てくるので、性加害だけでなく、高齢者に対するオレオレ詐欺も、従来では考えられないような手法なので、全て想定して対策するのは無理なことなので、何があってもここに連絡すれば、一緒に考えるよというような窓口を確保しておくことが大事だと思う。

警察でも、ストーカー被害にあっているかまだ分からないけれども、こういう時にどうしたらいいかとか、いじめが行き過ぎて、これは犯罪ではないかという時に、相談できる窓口がある。

#### 〈奥原副座長〉

44 ページの下にDVの話があり、女性の相談に応じると書いてあるが、これは性をなくしてもいいのではないか。

#### 〈事務局〉

DV 対策は子ども家庭支援課で行っており、女性限定である。男性の場合は神奈川県がやっているのですが、こういう形で記載している。

#### 〈大滝座長〉

犯罪の形も昔では考えられないことが起きていて、男性・女性という変な差別はいけない。あとどこで触れたらいいのかわからないが、明確な貧困や犯罪ではなく、家庭内にいるけど精神的に追い詰められる、横須賀で自殺する人は同居家族が多いと出ている。家庭の中で起きている問題は、行政として踏み込めないのだが、実はそういうところで追い詰められ、公的な支援を一切使えない人たちがかなりいる。大きな問題が起きた時に、どこかに相談に行ったのか聞いたら、相談に行ったけど家の中の問題だから関与できないと言われたとか、そ

ういうところに大きな問題をたくさん抱えている人がいるということに対する想像力が必要である。

#### 〈河野構成員〉

この冊子を目にされる様々な方が、これを見て傷つくことがないようにしてほしいというのが1つある。そういう目で見直してみた所、どうしても気になるのが43ページのリスクを抱える可能性のある人への支援という表現。リスクというのは自分が危険という存在のように捉えて傷ついてしまうのではないか。生きづらさとか、その方が抱えているつらさという表現に置き換えることで、そういった誤解を避けることができるのではないか。あと医療機関に勤める立場としては、健康問題に関してどのように対応していくか、興味・関心があるが、高齢者に関しては健康上の問題についてということに記載してあるが、年代の若い方でも色々な健康問題を抱えて、自殺に傾く人もいる。これは医療機関の役割・責任の範疇が大きいと思うが、医療機関が密に連携をしながらやっていけることを、これから考えていけるといい。つまりは高齢者だけでなく、幅広い年代の健康問題を抱えた方への支援ということも焦点が当たるような表現になるといいと思った。

#### 〈大滝座長〉

私もリスクを抱えるという表現は引っかかっていたので、もっと人に優しい表現に変わるといい。あと病気で特にガンを告知された人は、辛い状態が続く。病気で亡くなる方の半分は精神疾患だと聞いている。

平井構成員の案について、「生きることの促進要因」「生きることの阻害要因」という言葉について、わかりにくいということが書かれていて、わかりにくいとは他に何と書くのか頭を抱えていた。それからアウトリーチというのは業界では普通の言葉だが、もう少しわかる言葉でという指摘があった。専門用語にはニュアンスが込められているので、全部日本語に置き換えるのも難しい。しかし計画は全市民、全省庁がターゲットだと思うので、上手く修正できないものかと思う。

#### 〈玉井構成員〉

他の計画と同様、概要版は出るのか。多分最初の10ページで皆ギブアップしてしまうと思うので、簡単に見られるものを用意してほしい。

#### (2) 今後のスケジュールについて

#### (3) その他

#### 自殺対策計画の概要版の作成方針について

#### 〈事務局〉

資料1に基づき説明。

#### 〈大滝座長〉

スケジュールについて説明があったが、スケジュールに関してはこれでいいか。あと、概要版について、本文のダイジェストというよりは、市民が見た時に、イラストも利用して、明るく作れないかと考えているが、概要版について何か意見はあるか。

#### 〈玉井構成員〉

市民に関心をもってもらうことと、今の現状を知ってもらうこと、手にしてもらいやすくするにはイラストを入れるのも良いと思う。

#### 〈事務局〉

第1次の時も色々な意見をいただき、イラストを入れた方がいい、見やすいようにということと、単に縮小版で役所っぽい、固いのはよくないということと、アニメのようにしたらどうかという意見が出た。特にゲートキーパーについて知っていただきたく、漫画の形で入れる等工夫したり、「人に話すのっていいですね」とか、「話で心が軽くなった」と、話すこと・相談することが良いことだと思ってもらえるような内容も入れて作成した。

#### 〈河野構成員〉

概要版は日常に活用していて、お渡しするだけで「こういうのがあったんだ」とそれだけでも心が軽くなる方がたくさんいるという経験をしている。お願いだが、高齢者には電話番号の文字が小さく、こちらで拡大コピーをして渡しているので、可能であれば文字の大きさや、高齢者に見やすいように工夫していただけるとありがたい。

#### 〈事務局〉

概要版に関しては、できるだけ広く市民の方に届けたいと思っているので、機会ある毎に配っていくという形で、それなりの数を作る方法で考えている。

例えば前はゲートキーパーを知ってもらいたいということで、1ページを使ってゲートキーパーについて記載したが、これは周知した方がいいのではないかというのがあれば、同じようにそれなりのスペースを割きたいと思っているが、これは載せた方がいいというものがあれば教えていただきたい。

#### 〈藤尾構成員〉

例えば学校へ行きたくない等のセルフチェックは入っているのか。

#### 〈事務局〉

それは載っていない。同じように配っている横須賀こころのホットラインを書いたものについては、健康チェックということで入っている。その辺も参考にし、検討する。

#### 〈大滝座長〉

「とりあえずSOSを出して」ということを入れてほしい。小中学生に配る健康に関するパンフレットがあるが、私は作成委員の1人で、メンタルヘルスの話をその中に入れて、「困った時はこのように相談しよう」とか「SOSはここに出しなさい」ということを列挙したものを生徒には全員配っているが、SOSはなかなか出せないのが現状である。

#### 〈奥原副座長〉

自分ではなかなか気づけないので、自分をみつめてみる、自分の心はどうかということから、人に話してみようとか、そこからゲートキーパーの話につながると思うので、まずは自分をみつめてみるという部分があってもいいと思う。

**〈大滝座長〉**

うつ病は自分が病気であるということを認識できないことがある。特に若い人のうつは、抑うつ気分をあまり自覚しない。ピンチの時も自分がピンチだと分からなくなる時があるので、それが何らかの形で本人が自覚できるような方法が出来るといいと思う。

**〈河野構成員〉**

死にたいと思う気持ちはおかしいことではないのだというメッセージが入ると、SOS が出しやすくなり、出された側も「変なことを考えてはダメだ」と言いがちだが、その一歩のところがつながりやすくなるのではないかと思った。

**〈大滝座長〉**

学校に配布したパンフレットにも、「誰でもそんな気持ちになるんだよ。でも振り返ってごらん。必ずあなたのことを見てくれている人がいるから」というメッセージを最初に書いた。死にたくなる気持ちは、普通のこととして受け入れられるような、そういう冊子が出来るといい。

全部新しくする必要はなく、前のものも使えるものは使ったらいと思う。

**〈事務局〉**

本日は多くのご指摘をいただいた。事務局で大滝座長と相談しながら修正し、パブリックコメントの前に皆様にフィードバックする方向で進めていきたい。次回協議会は来年1月を予定している。パブリックコメントの結果も踏まえて、皆さんにご意見いただければと考えている。以上で自殺対策推進協議会を閉会する。

以上

※この議事録は構成員等の発言を、事務局において要点筆記したものです。